

小・中学部副校長 田中 俊光

## 「吹き出す力」



いろいろな木々が、きれいな緑の葉を吹き出す季節になりました。毎年のことですが、どこにこれほどの量の葉をしまい込んでいたのだろうと不思議に思います。また常緑樹のクスノキでさえもやはりこの時期に若葉を吹き出すことと、それがはじめは赤く透き通っているということが興味深くて、方南通り沿いのクスノキには、毎朝楽しませてもらいました。

新年度が始まって一月がたちます。どのお子さんにとっても、クラスが変わったり、先生が変わったり、教室が変わったりと、いろいろな変化があり、ようやくそれに慣れたころではないでしょうか。特に新入生にとっては、学校も変わったわけですから、とても大きなストレスがあったと思います。例えば小学部の1年生は4月当初は、まず玄関から教室までの移動がとても大変そうでした。泣いている子や廊下で横になる子もいて、先生たちもなかなか大変そうでした。しかし毎日毎日目に見えて子供たちは変化してきました。泣かずに歩けるようになり、友達と手をつなげるようになり、少しずつ教室に着くのが早くなってきました。新入生は特に変化が見えやすいですが、新入生以外のお子さんも、それぞれの環境の変化に立ち向かって、階段を登ろうとしているのだと思います。学年が上がるということは、自然にゆるやかに上がっていくのではなくて、変化に立ち向かって階段を一つ上ることなのだという気がします。それも、それまでに内側に蓄積していた力をその機会に吹き出すということかもしれません。その時に向けて毎日少しずつ力をつけていきましょう。

高等部副校長 高橋 一郎

## 「共感できること」



今年度もよろしく願いいたします。高等部を担当いたします。

1年生の生徒が自己紹介をする機会がたくさんありました。

名前や出身校のほかに、自分の好きなことについて発表していました。好きな食べ物、好きな動物、趣味など、少し恥ずかしがりながら発表している姿に初々しさを感じました。「〇〇が好きです」と発表すると

聞いている生徒が「へーえ、そうなんだ」「自分と一緒にだ」など応えると、発表している生徒もうれしそうにしていました。自分の好きなことについて、ほかの人に聞いてもらえた、わかってくれた、と思ったのでしょうか。

自分の考えや思いが伝わったり、他の人の考え、思いが自分と同じだと思ったりすることが「共感」ということです。良好な人間関係を築く上で大切なことだと考えています。共感できる人間関係が作れるよう、支援をしていきたいと考えます。その上で、お互いの違いも認められるようになることが目標です。

元号も新しくなり、社会の変化も著しい時代ですが、「共感できる」という人間の力は不変のものです。変化を感じる時こそ、少し立ち止まって人との関係を大事にしていきたいと思います。

